

その1 伝統的住宅地域の家庭清掃の実態

O 大谷女短大 藤本佳子 広島女学院大 富士田亮子

目的 住居の担い手である主婦は従来のように、ごまめに日常的に清掃を行なわなくなっている状況がみられる。そこで清掃の実態調査を行ないその要因を分析し現在の住生活、住様式にあった新しい清掃学を樹立する基礎資料とするものである。

方法 大阪府富田林市地寺内町の主婦を対象に、留置式アンケート調査。母数500 配布数315 回収数251件。調査内容は清掃への意識、清掃回数、清掃の方法、清掃道具、清掃時期家族構成、住宅形態等。調査時期 1985年8-9月。

結果 1.清掃が好きな人は48% (121件)で、嫌いな人は10% (26件)と好きな人が多い。これは主婦の年齢が高くなればなるほど清掃が好きな人の割合が多くなる。2.整理整頓に気をつけている人は70% (176件)と圧倒的に多く、清掃の好きな人に多い。3.清掃に満足している人は44% (110件)で、満足していない人36% (90件)より多い。これは主婦の年齢層が高くなればなるほど満足している人が多く、又専業主婦に多い。4.清掃に満足していない理由は時間が足りない、こどもに手がかかる、体の具合が悪い、思いどおり片つかない等。時間が足りない理由は共働きの人に多い。5.清掃方法は親から受け継ぐのもあるが、自分の家にあわせているようだ。清掃するのは規則的にしているのが57% (142件)と多く、汚れが気になる時16% (40件)暇がある時のみ10% (25件)汚れた時のみ10% (24件)とつく。6.清掃時間は30分以上60分未満が42% (127人) 15分以上30分未満、60分以上90分未満の順である。職業の有無で差は見られない。6.清掃回数は1日1回が52% (130件)と最も多い。